平成30年度　伊万里市立山代中学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
生徒一人ひとりが自信と誇りをもち、いきいきと輝く生徒の育成	（1）確かな学力の定着と向上 （2）開かれた学校をめざして、家庭・地域との連携 （3）豊かな人間性の育成、歌声あふれる学校をめざして （4）生徒指導の充実 （5）健康・体づくり （6）家庭教育力の向上 （7）小中連携の推進 （8）立腰教育の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　学力の向上ときめ細かでいきいきとした生徒指導を目指す

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	教職員の資質向上	指導力の向上	全教師が年1回の研究授業を行う。そのうちの5回は全職員が参加する研究会を実施する。	西部型の授業視点を取り入れた授業に取り組み、講師も招聘して研究の充実を図る。	A	目標通りの研究授業を行うことができた。特に全職員参加の研究授業はチームを作り、複数で取り組めたことがより効果的だった。、	西部型授業を徹底しつつ、授業づくりのステップ 1.2.3 も活用しながら、更なる指導力の向上に努める。
	教職員の資質向上	協力体制の確立	学校を組織体ととらえ，全体での自分の立場や役割を自覚し，自分の職務に専念する。	仕事の重要度ごとに優先順位をつける。 学年・各部ごとの横の連携を密にする。	B	学年部会での計画をもとに、役割分担に応じて企画、運営を行った。出張等におけるサポートも相互に行うことができた。 仕事をできる限り分担し、職員間の偏りをなくすように努めた。担当者会は適宜開くことができた。 学年部会を毎週、時間割の中に組み込んでいるので、見通しをもつと共に共通理解のもと活動できた。	学年内での仕事の流れを明示し、定期的に確認する機会をもつ。 仕事量の分担をさらに行う必要がある。
	学校・学級・教科経営	子どもの能力や努力に対する評価	全職員が，生徒のいいところ探しに努める。	生徒の善行の紹介などを帰りの放送の時間や通信等を利用し校内外に知らせる。 週末(金曜日)の職員集会を確実に実施する。	B	毎週の帰りの放送では、知らせることができたが、週末の職員集会では十分に知らせることができなかった。	週末職員集会での紹介をきちんと行う。
教育活動	●学力向上	学習内容の理解	全教科で市共通テスト平均を上回る。	授業の工夫・改善に心がけ，特設補充学習（SF，SA）で学習不振の生徒の改善を図る。	C	SA では、めあてとまとめを書かせることによって内容の充実を狙った。 ノートの書き写しになって学習内容が定着していない生徒もいた。市の共通テスト平均を上回る教科がほとんどなかった。	プレテストをするときに、勉強する仕掛けを作る。補充学習も適宜行う。SA ノートについては書き方のパターンを示し、内容を充実できるように指導する。
	●学力向上	○授業と家庭学習とのつながり	3冊のノートを徹底して，家庭学習習慣の定着を図る。	・生徒自身に学習ルールを作成させたり，点検させたりすることにより，自覚と啓発を促す。	B	家庭学習の習慣はついている。PDC シートの効果もあり自分の学習習慣を見直す機会になった。	SA ノートの書き方のパターンを示し　内容を充実させることができるよう指導する。宿題を出すときも、指示を明確にだす。
	●学力向上	指導方法の工夫・改善	県学習状況調査や県数・県英テストの県平均以上をめざす。	・全教科で西部型授業の指導を徹底する。	C	どの教科も県平均を越えることができなかった。目標や具体的な取り組みをててて、指導できたことが良かった。	振り返りの場面で、きちんと文章で書ききれるように指導していく。家庭学習の質の向上を図る。
	●学力向上	○ICT 利活用教育の推進	・ICT を活用した授業を全教科で実践する。	・研究授業時の指導案には活用について明記しより効果的な指導法を学ぶ。	B	ICT を生かした授業づくりがどの教科でもされていた。 しかし、ICT教育についての校内研修を行うことが出来なかった。	研修で学んだことを学校全体で共有する場を設ける。
	生徒指導	より良い人間関係づくり	学校が楽しいと感じている生徒の割合を90％以上にする。	・学級活動の授業や，よいことさがしにより，より良い人間関係を構築する。 ・アンガーマネジメント等について教師が人間関係づくり	B	よいこと探しを放送することにより、お互いの良い面を知ることができた。 研修により知りえた知識を生徒指導に活かすことができた。	生徒どうしのよりよい人間関係づくりに適した方策の開発。
	●心の教育	豊かな心や生き方の指導	計画に沿った道徳の授業実践，生徒と職員の信頼関係づくりに努める。	・わたしたちの道徳や命の教育指導資料などを活用し，計画的に道徳の授業の充実を図る。 ・ふれあい道徳を通して家庭との連携を図る。	B	道徳の授業実践が、ややできた。来年度からの教科化もあり、意識して実践してもらえたと思う。 ふれあい道徳で、保護者の方、地域の方に参観してもらえた。	年間計画に沿って、毎週授業を実施していく。 道徳の授業を TT で行うなどして、学年間で自由に参観できるようにする。 ふれあい道徳の実施。
	●心の教育	教育相談の充実	生徒理解を深め、生徒及び保護者の支援に努める。	・職員研修を実施し、生徒及び教育相談についての理解を深める。生徒の情報交換を密にし、共通理解を図るとともに、SCやSSW，保護者との連携しながら支援を行う。	B	発達障害の現状についての職員研修では、より一層生徒理解が深まり、今後の支援に役立った。 SC や SSW、保護者と連携しながら支援を行うことができた。不登校傾向の生徒について出席日数の増加や教室復帰には至っておらず、支援の検討が必要である。	不登校傾向の生徒の支援について、関係職員と再度検討し、生徒に応じた支援を行う必要がある。
	●心の教育	読書習慣の定着	朝読書を継続し，週 1 冊を目標に本を読む。	・図書室の本の紹介を定期的に行い、利用を呼びかける。 ・「家読」の読書活動を推進する。 ・「ぶっくん」の利用を呼びかける。	A	朝読書を徹底することができた。 また「ぶっくん」についても各クラスの係が忘れずに利用することが出来た。	学校内での読書活動については徹底できたが、家庭内での読書習慣についても今後、考えなければいけない。
	●心の教育	○心の教育3セットの活用	他人への思いやり，気配りにあふれた「伊万里っ子しぐさ」を周知し，日常意識した生活を心がけさせる。 「命の教育」資料集の活用を年間計画の中にきちんと位置づける。	・カレンダーを教室に掲げ，全校放送で紹介し定着を図る。 ・学校からの情報発信によって家庭への啓発をする。 ・学年会の折に資料集などの活用状況について確認す	C	「伊万里っ子しぐさ」は、毎日できた。各教室にも掲示してあり、折に触れ目にする機会があった。	「命の教育」資料集の活用ができていなかったので、年間計画の中に位置づけ、実践をしてもらうようにする。（ふれあい道徳の時、などに）
	●心の教育	「命の教育」の推進	「栗原史好先生命の文庫」の活用 11 月 2 日を含む週「山代中・命と生き方を考える週間」への取組を図る。	・栗原史好先生「命の文庫」の本を充実させ，生徒へ紹介する。 ・「命と生き方を考える週間」への取り組みの充実を図る。	B	11 月の「命と生き方を考える集会」では、全校生徒が真剣に話を聞き、感想を書くことができた。	・生徒会集会の時などに、「命と生き方を考える週間」に合わせて、栗原文庫の本の紹介や、栗原先生について紹介したりする。
	●心の教育	ボランティア活動の推進	ボランティアの精神を涵養し，自主的に動ける態度を育てる。	駅舎清掃や，募金活動等のボランティア活動を行う。	B	学校生活の中でも友だちのために自主的に動く姿が見られた。24時間チャリティー募金ボランティアも多くの生徒が参加し、活動するなどボランティア精神を育成することができた。	青少年赤十字のトレセン参加者が学んできた精神「気づき・考え・行動する」を生徒たちへ伝える場の設定を行う。
	●○いじめの問題への対応	組織的、積極的な対応の推進	「いじめ」への対応についての研修の充実を図る。	生徒に対する密着指導を徹底し，またアンケートや教育相談の充実によって「いじめ」に対応する取組に全職員で取り組む。	B	生徒や保護者からの情報に迅速に対応することができた。昼休みの校内巡視を徹底し、生徒を観察できた。	各学期のアンケート実施を定着させる。
	●健康・体つくり	食育の充実	体験学習や年1回の教育講演会を通して，豊かな食生活を推進する。	保健体育・家庭科等で「食」の重要性を理解させるとともに，学活時間を利用し啓発に努める。	B	栄養教諭と連携して、給食献立を家庭で調理実践できるレシピカードを作成した。家庭を巻き込みながら、今後も食の大切さの啓発に努めたい。また、企業を招いて「魚の料理教室」を開催した。	栄養教諭からの食育講演会を行う。給食便りと重複しない内容の食育便りを発行する。
	●健康・体つくり	○部活動の適正指導	生徒が楽しく活動するための環境を整え，活動時間を確保し，体罰による指導を行わない。	・充実した部活動を目指し，できるだけ顧問のついた状態で活動する。 ・部活動内の人間関係を良好にするよう努める。	B	顧問の配置を工夫をしたつもりだったが、結果的に特定の顧問の負担が増えたり、生徒にとって不十分な指導体制のある部活動が出てしまった。 国や県のガイドラインに基づいて柔軟な部活動運営に切り替えることができた。体罰の発生もなかった。	本年度より募集停止にしたので、次年度、中体連後に活動のない部活動がある。十分な指導体勢（人数的に）をとり、職員は互いに協力し、均等に休養もとりながら、無理がなく、生徒にとって有意義な部活動を目指す。

	●健康・体つくり	モーニングストレッチの推進	朝の準備運動で体を目覚めさせ，体がだるかったり，疲れを感じたりする生徒を少なくする。	毎朝，2分間のモーニングストレッチを行う。	C	モーニングストレッチの意義を十分に理解し、毎日真剣に取り組むまでに至らなかった。委員会やクラスの係も十分に呼びかけなどを行えていなかった。	生徒会集会などで保体部が中心となり、モーニングストレッチの意義や取り組み方を説明する時間を設ける。また、月間目標に掲げるなどの対策を行う。
	○特色ある学校づくり	立腰教育の実践	立腰教育を通して学習に向かう姿勢を正し，頑張りぬく心をもつ態度を育てる。	・毎日の放送時、全校へ「立腰」を呼びかける。 ・授業時に「立腰」を呼びかける。	A	毎日の朝の放送や集会時、授業開始前の立腰をきちんと行うことができ、生徒も授業に集中して取り組むことができるという意見が多く、効果も表れている。	今後も立腰の実施を徹底させていく。
	○特色ある学校づくり	子どもたちへの学習支援	生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育活動を積極的に取り入れる。	特設補充の時間SFやSA，夏季休業中の学習会、放課後補充学習等によって，生徒一人ひとりを伸ばす活動を行う。	B	テスト前の補習学習や夏休みの学習会を生徒の希望や習熟度に分けて実施することができた。	習熟度別や希望による補習授業の回数を増やし、個にあった学習活動を増やす。
	学校行事	体育大会や文化祭などの学校行事の充実	生徒各自が自己存在感を持てるような手だてを行う。 行事に関するアンケート等において，肯定的にとらえる生徒の割合を90％以上にする。	生徒の自主的活動を取り入れ，活動時間の確保と適切なアドバイスを行い，発表に対して必要な体制を整える。	B	体育大会では、実行委員会や団長、パネル制作委員にそれぞれ役割を与え生徒の自主的・主体的な取り組みの場面を多く持ち、生徒は実行することができた。 文化発表会の準備で生徒のリーダーと打ち合わせを密に行い、生徒が自主的に活動するよう計画を一緒に立てていった。互いに頑張っていたところを認め合う雰囲気ができた。	体育大会では、練習内容の計画や各クラスでの取り組みについてもクラスの保体部代表を中心に実行させ、より生徒主体の大会を目指す。 文化発表会の内容を精選しなければいけないので、企画の段階で、生徒会本部の学習部員と一緒に、内容を考える。

② 学校を開き，家庭・地域との連携を核に，信頼される学校づくりをすすめる

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	学校経営方針	教育方針の広報活動	生徒や保護者への周知を図る。周知率を80％以上にする。 回答を求める文書の回収率を 90％以上にする。	ホームページ，学校便り，学年便り，学級便り，学校安心メール等で周知を図る。また，PTA の集会で折にふれ，方針を伝える。	B	教育方針の詳細にわたる内容までは徹底できなかったが、年間を通して HP や学校便り，学年便り、学校安心メール等を活用したり、PTA 等でも機会あるごとに伝えるように努めたりして、保護者や地域住民に周知を図った。	今後もいっそう周知に努めるとともに、たよりや PTA 等で教育方針が徹底できるように工夫をおこなっていく。
	開かれた学校づくり	地域の方の学校行事への参加	授業参観，講演会，PTA活動等への参加を 50%以上にする。	日程を早く知らせると共に,学級の役員さんに呼びかけてもらう。公民館やPTAOB会等に協力を要請し，町民への広報活動をする。	B	保護者の参加率が低くなっているのが課題である。体育大会や文化祭など、大きな行事だけではなく、授業参観や学年行事等への参加率を上げていく。	区長会や民生委員会など、山代町の役員会への参加を行い、学校行事等の情報をこまめに発信する。
	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導	・生徒の安全や交通事故防止，生活事故防止に努める。	・月1回の安全点検をしっかり行う。避難訓練・交通安全教室等を通して，生徒に危険状況時の対処の方法を，確認させる。危機管理マニュアルを有効活用する。 ・生徒送り迎えの際の校内での交通ルールを明確にして徹底を図る。	A	交通安全教室、朝の登校指導などで生徒に交通安全の意識を付けることができた。 今年度は自転車についての大きな事故もなく、自転車の乗り方について注意することもほぼなかった。	歩行者や車の送り迎えについてのルール指導も徹底していきたい。
	○危機管理	○食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー等への対応についての理解の徹底を図る。	食物アレルギー等の指導についての研修を実施する。	C	食物アレルギーの研修は昨年度と一昨年度は実施したが、今年度は実施していない。アレルギーの生徒については担任や関係職員とその都度周知を図っている。	食物アレルギーの研修は短時間でも毎年実施する必要がある。来年度はアレルギーをもつ生徒の事例をふまえての研修を行う。
	○小中連携の推進	3校教職員連絡会の活性化	3校職員の交流を深める。	研修会や研究会を合同で実施したり、お互いに授業参観や出前授業等で，学校を訪問したりする。	A	計 3 回の実践交流会だけでなく、新入生 1 日体験入学や立腰教育の推進などを、3 校で意見を出しながら活動することができた。	今後も 3 校で連携をとりながら、交流を深め、立腰教育などの共通したテーマを実施していきたい。
	○小中連携の推進	3校PTA連絡協議会の活性化	家庭学習に関する情報を共有する。	児童生徒の課題を明らかにし，3校PTA研修会で話し合い，取り組みの充実を図る。	B	読書やノーテレビなど10箇条に関することの啓発はできている。「山代っ子の約束」を意識はしていない。	今年度同様の取り組みに加え、「山代っ子の約束」を校内に掲示する。
	●業務改善・教職員の働き方 改革の推進	○教職員全体の働き方改革に関する意識改革に資する具体的な目標を設定する。	・1週間に1日は部活動休養日を設ける。 ・平日の部活動の時間を短くし、退勤時間を早めるようにする。	・毎週、土・日のいずれかを部活動休養日とすることを徹底する。 ・平日の部活動時間を最長2時間とし、勤務時間後の仕事を早めに切り上げられるようにさせる。	A	週1日の部活動休養日や定時退勤日を設け徹底でき、全職員が働き方改革に関する意識を持つことができた。	今後も継続維持しさらに向上を図るために、教職員一人ひとりが自らの業務を見直しながらさらなる改善に努めていく。
教育活動	生徒指導	生活ルールの遵守	山代っ子の約束を意識した生活をさせる。	小中連携を密にし，生徒会，3校 PTA と連携して，山代っ子の約束 10 箇条を意識させる。	B	「山代っ子の約束」を校内に掲示し、啓発に取り組んだ。毎日目にすることで、昨年度よりも意識は高まったと思われる。	生徒会に「山代っ子の約束」に関する取組を考えさせ、生徒主導で取り組む体制を作る。
	家庭教育力の向上	テレビ，ゲーム，ネットの時間制限	家庭学習や読書を推進することにより，テレビ，ゲーム，ネットの時間を制限させる。	・ノーテレビ，ノーゲームデーを推進する。家庭学習 2 時間の確保，読書習慣の定着等により，テレビやゲーム，ネットの時間を減らさせる。 ・伊万里市家庭教育宣言の推進を図る。	B	ノーテレビ，ノーゲームデーの呼びかけはしたものの徹底はできなかった。しかし、家庭学習や読書習慣の定着はほぼできている。 伊万里市家読の日を部活動休養日と重ねた。相乗的にいい効果がでている。	小学校と協力してノーテレビ，ノーゲームデーの取組はもっと推進させていく。 伊万里市家読の日と部活動休養日と重ねる取り組みは次年度も続けたい。
	家庭教育力の向上	家庭学習の質の向上	家庭学習平均 80 分（1 年生）、90 分（2 年生）、100 分（3 年生）以上の生徒の割合を 50％以上にする。	家庭学習時間確保とサイクル学習が機能しているかをアンケートによって検証する。	B	2/4～2/8 に実施率調査を行ったが、達成率が45％だった。 小中連携で家庭学習の時間を定めているために、9 年間を見据えた取り組みができた。	家庭学習の取り組み方について、さらに生徒や家庭に紹介することで、学習時間が増加できるようにしたい。 テスト前であれば目標時間を越えることができていたが、普段の家庭学習時間については不十分で会った。質についても向上する必要がある。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	性教育の推進	正しい知識の習得	保健の授業に加え、性に関する講演会や思春期教室を開催し、性に関する指導の充実を図る。	・学年や生徒の実態に応じた性に関する指導を行うことで、知識を深めさせる。 ・性に関する講演会を実施し、性についての正しい知識を得る。 ・思春期教室を開催し，性について理解を深めるとともに、正しい判断力を養う。	B	保健体育では、1・3年生で性に関する内容を取り扱った。真剣な態度で授業に取り組めていたが、1 年男子のテスト結果が悪く、十分な知識を習得したとは言えず、補習の実施をすることもできなかった。その他は概ね知識や正しい判断力を養えたと考える。 ・6月に2年生を対象に思春期教室を行った。授業で聞いたことを将来に生かしていきたいと思った生徒が多かった。	授業の内容が十分に理解できていない場合は、補習や課題で内容理解に努めさせる。 来年度も思春期教室を行う。
	人権・同和教育	「いじめ」をなくす風土づくり	様々な差別について学ばせ，差別を見抜き，差別に立ち向かう態度を養い，「いじめ」をなくす風土をつくる。	人権学習を計画的に実施する。各学年で指導案検討や授業参観を行う。	B	LGBTや部落史についての職員研修を行うことによって、改めて身の周りの差別に関する意識を高めることができた。各学年による人権学習の実施を年間計画の中で計画的、系統的に行う必要がある。	年度当初に、各学年で歴史学習や行事等との関連を考えた実施計画を作成し、学年間で情報を交換する。
	人権・同和教育	不登校等の未然防止	生徒の悩みや変化を把握し、支援を行う。	欠席が増えた生徒や表情、言動が気になる生徒については、保護者と連携を図りながら、早期に対応策を講じ、支援する。	C	保護者への連絡や関係職員との連携等、早期の対応を心がけた。しかし、欠席が減ったり、気になっていた言動が改善したりする等の変化が見られた生徒は少ない。	早期対応の継続と効果的な対応策の工夫や家庭と協力しながら支援することが必要である。

	生徒指導	ノーチャイムの推進	生徒も職員も，時計を見て２分前行動に努める。	・2分前行動を心がけ，時計を意識した生活をする。 ・授業始めを守るだけではなく，授業終りの時間もきちんと守る。	A	臨時校時の時には、校時表を各教室に配布するなど、2 分前行動を意識する手立てをとることでノーチャイムを推進することができた。	今後も継続して取り組むことで、2 分前行動の意識をさらに高めていきたい。
	生徒指導	無言清掃の実施	時間内は，無言で取り組み，周りに気を配りながら掃除に取り組む。	・掃除始りと終わりには学年で集まり，掃除への意識づけを図る。 ・評価をしていくことで無言での取り組みの徹底を図る。	A	始まりと終わりに学年で集まることで、意識付けができ、掃除への気持ちの切り替えができた。・ある程度の取組はできているが、もう１段階レベルをあげていきたい。	・生徒会活動での清掃の取組を深める。評価ができる環境を作る。 ・自問清掃へのレベルアップをめざして、全校生徒への意識付けをおこなう。

●は共通評価項目のうち県の必須項目、、○は市の共通評価項目